

私の3年

労働者委員 木佐貫美保

高校を卒業してパン工場に就職した時、決めたことがあります。

「3年は辞めずに頑張ろう」です。就職が決まったと話すと、「3年は頑張らないとね」と大半の人が言いました。なので、刷り込まれただけのような気もしますが、3年を目標にしました。

そもそも、なぜ3年と言われるのか調べてみると、“逃げずに向き合えば、成果が出せるようになるかもしれない。だから少なくとも3年頑張ろう。”というのが理由だとありました。中学・高校も3年ですし、見極めるのにちょうどいい年数ともいえそうです。

目標とした3年は、長い日々でした。失敗して落ち込んで、「大丈夫、次は気をつけようね」と励まされ、「失敗して覚えるんだ」と自分を奮い立たせながら頑張りました。仕事を1人で任されるようになった時は、認められた気がしてうれしかったです。

2年目、教える側になりました。私のいた場所を後輩に教えるのだから、私のやるべきことは変わります。周りを見て柔軟に動くことが求められるようになりました。また、後輩と1年前の自分を勝手に比べて、比較されてるんじゃないかと周りの目が気になった時期でもありました。

3年目は、仕事にも慣れ、先を見越して指示も出せるようになりました。指示を聞いてくれない人にイライラして、気持ちが落ち着かないことも多く、ストレスが溜まっていたように思います。

後輩が入って、先輩がいなくなって、を繰り返して勤続15年。4年前に、工場から労働組合に異動しました。仕事は慣れてしまえば、同じことの繰り返しです。長くやればやるほど、このままでいいのかと考えてしまいます。また、数年おきにやってくる辞めたい波もどうにか乗り越えてきました。

振り返ってわかったのは、自分はそうそう変わらない。失敗ばかりを思い出し、なんとも言えない感情がこみ上げてきました。初心を忘れず、明日も頑張ろうと思います。